

# 福島市ボッチャ交流大会競技細則

## 第1条 主旨

福島市ボッチャ交流大会の実施については、原則として日本ボッチャ協会競技規則(フレンドリーマッチ版)及び福島市ボッチャ交流大会開催要項に定めるほか、この細則の定めるところによる。

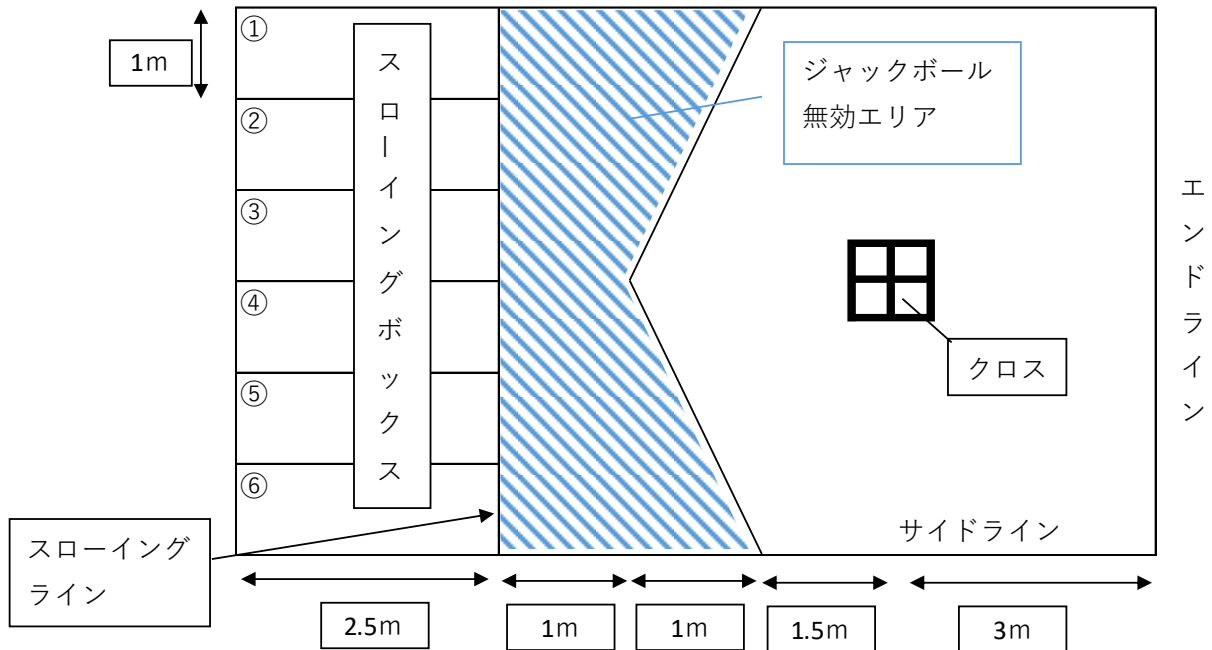
## 第2条 原則

ボッチャの競技を行う際の心構えは、敵・味方に関係なく、よいプレーは賞賛し、ミスを責めるような言動は、選手・観客・指導者全てにおいて控えること。本大会は交流大会であることから、ボッチャ競技を通じて、すべての大会関係者が楽しく交流すること。

## 第3条 競技コート

競技コートは、下図のとおりとする。(交流大会用コート)

- 2 先攻チーム(カラーボールは赤)は下図①③⑤、後攻チーム(カラーボールは青)は下図②④⑥のスローイングボックスを使用する。なお、同一試合における投球エリアの変更は認めない。



## 第4条 ボール

選手は、どちらのチームも自分たちが使用するボールを、各自2つずつ持って試合に臨むことができる。また、ジャックボールは各チームに1つだけ用意することができる。これより多いボールを試合に持ちこんではならない。

- 2 大きさ、重さの基準に準じていれば、競技に個人のボールを使用することができる。また、大会主催者が用意するボールを使用することもできる。

## 第5条 投球練習

試合を始める前に、各チーム6球の自ボールと、1球のジャックボールを2分以内で投球練習することができる。ジャックボールはチーム内の誰が投げてよい。自ボール6球と、1球のジャックボールを全て投げ切るか、2分が経過したとき、投球練習は終了される。

## 第6条 目標球(ジャックボール)の投球

第1エンドでは、赤チームが、審判が試合の開始を宣告した後に、コート内の任意の箇所に目標球(ジャックボール)を投球する。この際、コートを超え、Vラインを超えない場合はアウトボールとなり、目標球(ジャックボール)の投球権は相手チームに移る。

2 第2エンドでは、青チームが、目標球(ジャックボール)審判が試合の開始を宣告した後に、コート内の任意の箇所に目標球(ジャックボール)を投球する。以後は、第1エンドと同じ手順で行われる。

3 1試合のうち、同じ選手が目標球(ジャックボール)を2度投球することはできない。ただし、相手チームがアウトボールとなり、目標球(ジャックボール)の投球権が2回以上移ってきた場合はこの限りでない。

## 第7条 試合の勝敗

試合は4エンドを行い、合計得点が多いチームを勝者とする。

2 4エンド終了後に同点であった場合、各チーム代表者によるタイブレイクにより勝敗を決する。

3 前項のタイブレイクは、各チーム1名ずつ代表を選出し、クロスに置かれたジャックボールに対し1球ずつ投球を行い、ジャックボールにより近いチームの勝利とする。(ファイナルショット制度)なお、投球順はタイブレイク開始時にじゃんけんを行い決めるものとし、先に投球するチームのジャックボールが使用される。タイブレイクに使用するスローイングボックスは、代表者が使用していたスローイングボックスを使用する。

4 前項のタイブレイクを実施した結果、再度のタイブレイクを実施する必要が発生した場合は、前項と同様の方法により再度タイブレイクを実施する。なお、投球順は1回目のタイブレイク実施時から順番を変え、また、投球する選手も1回目と別な選手が行う。

## 第8条 投球時間

1エンドの投球時間は各チーム5分までとし、以降はエンド中の投球権利を失う。

## 第9条 ゲーム

ゲームはリーグ戦で行うものとする。この際、必ず全てのチームが試合に出場するように選出すること。

2 試合は1チーム3名で構成されたチームで行う。

3 試合に出場する1チーム3名に加え、控え選手を1名用意することができる。控え選手はエンドとエンドの間に交代することができる。

4 試合中は審判の指示に従うこと。

5 試合時間中は審判の指示がある場合、投球時間中に確認を行う場合以外は選手はスローイングラインを超えることができない

#### 第10条 ブロック順位の決定

第9条により試合を行い、ブロック順位を決定する。順位の決定にあたっては、①勝ち数、②直接対決、③得失点、④総得点が優先される。

#### 第11条 その他

- 2 選手でないものが、コート外からアドバイスを送る行為は認めない。
- 3 その他、競技中プレーに疑義が生じた場合は、全て審判長の責任において判断する。

## 反則(バイオレーション)について

今大会で用いる主な反則について記載します。以下に記載の無い反則については、主審及び審判長の判断により注意等を行うことがあります。

### 1 反則(バイオレーション)

- (1) 選手が投げる際にラインを踏んだ、補助具(ランブ等)がラインを踏んだ、ランブが空中上でラインを突き出ている場合。(投球動作後に踏んだ場合は OK。)
- (2) 審判の指示がある前に投球する。
- (3) 審判の指示のないチームが投球する

### 2 ペナルティについて

投球したボールは無効となり、アウトボールとなる。